
星のカービィ EX

ブラック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星のカービィEX

【Zコード】

N8607L

【作者名】

ブラック

【あらすじ】

星のカービィのゼロが本気でブブランドを侵略…？
その他メタナイトの逆襲や「デデデ」の暴走など

プロローグ

はじめましてといつときながらいきなりはじめをしたいださいます。星のカービィの小説を書いてみたいと思います。

ストーリーは、ゼロがまじめにプロプランで侵略みたいな感じでいきたいと思いますので

よろしくお願いします。^_m(ー) m^_

設定

時代（？）：カリビイがゼロツーを倒してから数年後の話

キヤラ:未定

場所：一ノツノノツノ

分類：シリカガーナリシトガーナリ

(ものをこくおいまいで ついで
の予定で行かしていたたきも)
せん()

小説に関しては子らが初投稿になるのでできない点や、こいつしたほうがいいよとこう点をばんばん指摘してください。

ではそろそろ小説に
・
・
・
・
・

- - - - -

序章第一話

物語はいつでも平和なプロップランド……

からではなくメタナイトの要塞から始まる。

『一ノ山』（警報音）

？？？？「ちつ・・・見つかつたか・・・」

何者かがメタナイトの要塞内の廊下を逃げる。
それをメタナイトが追つ。

メタナイト「お前たちは回り込め！挟み撃ちにするぞー。」

手下「了解！」

メタナイトたちは一手に分かれた。

そして案の定侵入者を挟み撃ちの状態になった。

メタナイト「お前は何者だ！？」

？？？「さあな・・・。」

メタナイトがやっ飛ぶ。ビックり追いつく途中に誰かが報告
したらしい。

メタナイト「！――！――おまえは・・・」

序章第

どうでしたか？

すいません初なんで、というか短すぎました・・・
マジすいません。

次回も書きますのでよろしくお願ひします。

序章

前回のあらすじ

メタナイト……………おまえは…………」

メタナイト「ナイトメアーーー！」

周りの野次馬など「ナイトメアだ

辺りが騒がしくなる

「……………そんな」とはわかつてゐる!何のよつだ?ナ

イトメア！？」

「アーリー」「ニルス前は」イーマンギー「のム」開闢にはがニ。

リアルマターがため息を漏らす

リアルマター - 好きにしな

リニア・マタニ「おはよう、答えるバ

メタナイト「答えないというなら、力づくで答えさすまでだー！」

スダナイトが先に仕掛けた
スナッケルを表すハザードマーク

しかしあつたりよけられる

続いてメタナイトの突き

以下戦闘シリーズ省略

メタナイト「・・・なぜ攻撃してこない?」

リアルマダリーナ「あらは戦う気などないのにお前が勝手に仕掛けで

メタナイト「・・・?

リアルマター「（そろそろか・・・）もう用は果たした・・・」

一同「・・・・・? ? ? ? ?」

リアルマター「さらばだ・・・・・

メタナイト「あ! こら待て! 逃げるな卑怯者! ! !」

リアルマターが行つた先にはすでにリアルマターの姿はなかつた
メタナイト「・・・・・? ? ? ? ?」

メタナイト、お前たちのはこのことについてどう思つ? 「
メタナイト「・・・・・もしそうだとすると・・・・・お前たち、ハルバー
ドをいつでも出撃できるようにしておけ」

一同「へ?」

メタナイト「わかつたな?」

一同「・・・・了解

デデデ城前にて

デデデ「そんなわかるかゾイ」

メタナイト「でも確かにリアルマターが・・・・・ゼロツーはカービ
イが倒しただろ? がゾイ」

メタナイト「しかしそロツーがいないのにわざわざアプロランダに
攻めてきますかね?」

デデデ「お前は幻覚でも見たんだゾイ! ! !」

メタナイト「しかし・・・・・

デデデ「いい加減にするゾイ! ! !」

ブチン(メタナイトが切れた音)

メタナイト「もういいです! ! ! のへつぽこ大王! ! !」

要塞にて

メタナイト「明日午前9時にアプロランダにハルバードを出撃させる! それまでにハルバードの整備をしておけ! ! !」

一同「へ?」

メタナイト「わかつたな？」

一同「・・・了解」

メタナイトが立ち去る

メタナイツ「・・・マジでー!?」

序章（後書き）

次回からカービィがでまーす

第一話 メタナイトとカービィ

とあるテレビ番組にて

“『上に昇りたがるのは馬鹿と変態だけだ！－』”

カービィ「…………そーなのかー」

「よし！メタナイトや大王に教えてあげよう！－！」

ワープスターでメタナイトの要塞に向かうカービィ

メタナイツ「あ！流れ星！」

部下「あ、ほんとだ～」

メタナイツ「あれ？でもなんかこっちに……」

ワープスターがメタナイトの要塞に突っ込む

カービィ「着陸失敗した～……ってワープスターがつ！－」

ワープスターの羽がもげる

カービィ「死なないで！ワープスター！」

メタナイツ「まず生きてる俺たちの心配をしろ！－！」

カービィ「あれ？メタナイツなんでここにいるの？」

メタナイツ「こっちのセリフだよ！－？」

カービィ「まだクビになつてなかつたんだ……」

メタナイツ「……はい？」

カービィ「いや、昔メタナイトとやりあつたときに、『あいつらは

クビだ！』とかなんとかいつてたから……」

メタナイツ「……。（メタナイト様そんなこと思つてたんですか・

・・・）」

カービィ「で、メタナイトはどこ？」

メタナイツ　トラウマスイッチ発動中

カービィ「まあいつか。てきどつに壁破壊してつたらそのうち会え
るだろ」

Stage 1クリア

ドカーン（壁にボムが投げられた音） バキバキ（壁に亀裂が入る音） ガラガラ（壁が壊れる音）

カービィ「メタナイトどこ？」？」

はたから見るとただのテロリストである。

カービィ「そういやメタナイトって上のほうにいたよつな・・・」「よし！！」

上にボムを投げる

ドカーン（壁にボムが投げられた音） バキバキ（壁に亀裂が入る音） ガラガラ（壁が壊れる音） グラグラ（要塞が揺れる音）

カービィ「ん？何だこれ？なんかスイッチがある、おしてみよ！」
カービィはダイナマイトの起爆スイッチを押した ドッカーン

部屋が崩れた

カービィ「うわ、死ぬかと思つた・・・」

普通は死ぬ

カービィ「あ、でも上への道ができたラッキー！」

Stage 2クリア

余談だがダイナマイトの起爆スイッチとはヘビーロブスターの自爆スイッチである

メタナイト「散々要塞を破壊しようって・・・で、何のようだ！カービイ！？」（怒）

カービィ「いや～ちょっとメタナイトに教えたことがあってね」

メタナイト「何だ！？内容によつては貴様をここで殺す！！」

カービィ「知つてた？『バカ』と『変態』は上に昇るんだつてそれ

でね・・・

メタナイト「・・・」

カービィ「メタナイトつてさあいつでも上に昇りたがるじゃん、だからメタナイトってバカで変態なんだね~~~~~」

メタナイト」（がーン）・・・そうか・・・「

メタナイト「・・・革命の準備」

カービィ「ふーん、デデデより上に立つために?」

「アーヴィングの『アーヴィング』

メタナイト ト ラウマスイツチオソ

stage3クリア

カービィ「そういう革命って何の革命だろう？」

國語 卷之三

メタナイト「大王がどうした？」

カービィー『メタナイトがこの国をのつとろうとしている』とか言

八
九
五
九
九

カービィ「？」

— — — — —

カービィ「え！？ゼロツーが生きてる？？」

メタナイト - ああたぶんな上

タナカ、「ついてきてくれるか?」

カービイ「もちろん！」

続
<

第一話 メタナイトとカーピィ（後書き）

ちなみにメタナイトが機嫌が悪いのは、デデデにバカにされたから
です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8607/>

星のカービィ EX

2010年10月9日23時22分発行